

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4095100030		
法人名	社会福祉法人 日本傷痍者更生会		
事業所名	グループホーム更生会にじの郷		
所在地	福岡県遠賀郡岡垣町中央大3-22-1 (電話) 093-282-5720		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 23 日	評価結果確定日	令和 5 年 12 月 10 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然あふれる、風光明媚な岡垣町にて事業を運営しております。広い敷地内に介護老人保健施設やサービス付き高齢者向け住宅、保育園等を併設した複合施設です。玄関ポーチにはベンチと季節の草花を置き、玄関内はご利用者と職員が一緒に制作した作品を掲示し、来訪された方々に観覧いただいております。また、ホーム横の小さな砂場は保育園の園児達がお天気の良い日に遊びに来て砂場遊びをしています。昨年、ご家族に頂いたコスモスの苗を砂場沿いに植えたところ、今年も満開に咲きご利用者の方々の散歩コースとなり楽しまれています。地域行事は未だ控えておりますが、廃品回収と子ども見守り隊のお手伝いは、事業所全体の取り組みとさせていただき、地域の一員として共に支えあう関係性作りを務めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 10 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

広い敷地には様々な福祉事業所を開設している。福祉に関する全般を受け付けることができ、地域住民も安心できる法人である。グループホームは定員18名の2ユニットである。地域活動に積極的に参加している。見守り隊を結成し、小学生の登校時・帰宅時には道路に面して見守り隊が並び、小学生の安全を守っている。共用空間は、天井が高く、日当たりも良く、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、事業所の理念を声に出して唱和し、各職員へ理念を共有している。職員はご利用者一人ひとりを理解するよう努め、その人らしい生活のサポートを行うよう努めている。	開設当初より掲げている「一人ひとりが、住み慣れた地域の中で共に支え合い、自分らしく生活できる様な支援を目指す」という理念を職員の目に付く場所に掲示し、朝の申し送り時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事は未だ控えているため、交流の頻度は減っているが、地域の清掃活動や廃品回収、子ども見守り隊を事業所全体の取り組みとし、地域の一員として繋がりを持っている。	町内会に加入している。清掃活動や廃品回収に参加して地域との繋がりを大切にしている。利用者と職員とで「子ども見守り隊」を結成して、事業所の歩道で小学生を対象に帰り道の見守りを行っている。地域で採れた芋を差し入れにいただくこともあり、地域との付き合いは充実している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の影響から地域の方への見学会は中止しているが、サービス付き高齢者向け住宅の交流スペースを利用した支援を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月毎に年6回開催し、ホームの運営や取り組み、課題や事故等を報告している。参加委員からはご意見や要望等を提案してもらい意見交換を行っている。出された意見や要望を検討し、ホームの運営や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。	2ヶ月1回、運営推進会議を開催している。会議では利用者状況や健康状態、事業活動の報告等を行い、議事録を作成している。構成員は利用者家族、区長、民生委員、町役場職員、福祉事業関係者で構成されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員に参加していただき、介護の困難事例や事故等を報告相談し、アドバイスを受たり情報交換を行っている。コロナ陽性者が発生した時は、フェイスシールドやガウン等を寄付していただいた。	電話やFAX、メールを活用して連携を図っている。定期的に入居者状況報告書を町役場に報告している。法人広報誌や事業所広報誌は役場等に配布し、事業所の実情を伝えるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一法人事業所と合同で身体拘束廃止委員会を開催し、具体的な禁止行為について事例を挙げて検証、職員は身体拘束が利用者にも与える影響や弊害について理解している。また、職員会議で話し合い、言葉使いや対応についても都度指導している。玄関は施錠していないが、段差があり危険なため、転落防止にセンサーを設置している。	身体拘束適正化委員会を設置している。身体拘束をしないケアを目指している。職員に対しては、毎月、身体拘束委員会を開催して「身体拘束チェックリスト」を配布し、身体拘束をしないケアができていないかを確認している。玄関は施錠せず、外出の際は職員が付き添って支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人研修や委員会で高齢者虐待防止について理解を深めている。 ケアの実践中に気づいたことは、その場で指導し適切なケアに努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関するパンフレットを玄関に準備し、ご家族や来所された方がいつでも閲覧できるようにしている。 現在、成年後見制度を活用されているご利用者がいるため、職員は理解するように努めている。	年間研修予定表を作成して、計画的に研修を実施している。権利擁護に関する制度については、契約時に家族等に説明を行い、必要に応じて支援している。権利擁護に関するパンフレットは玄関に準備している。毎月の身体拘束委員会と一緒に、権利擁護に関する研修を開催している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みは常時受け付けており、契約時には口頭及び書面での説明を行い、同意のうえで契約いただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて、生活のご様子や状況の報告を行っている。ご家族の気持ちを汲みとり、話し易い雰囲気作りに努めている。ご意見や要望、苦情等を真摯に受け止め、運営や介護計画書に反映している。	意見箱は玄関に設置している。利用者からの意向は、個別支援の際に意見を聴くようにしている。コロナ禍前は「夢叶えようプロジェクト」で利用者の希望に個別に対応していた。次年度は再開を計画している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員が意見や要望を発言できる雰囲気作りに努めている。出された意見や要望を運営や業務に活かせるよう努力している。朝夕の申し送り時に、職員の気づきや心配事を話し合い、速やかに対応している。	月1回のミーティングで職員からの意見について話し合いを行っている。声かけの方法や介護方法等の意見が出ている。ミーティングの議事録を作成し、回覧して共有している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標達成シートを取り入れ、各自が目標とそれに合わせた計画を立て、達成できるように一緒に考えている。 また、努力や実績に応じた給与体制である人事考課制度を導入している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は、年齢、性別、資格等の制限はなく、人柄や働く意欲を優先している。休憩時間や勤務体制、希望休に柔軟に配慮し、産休や育休体制も取り入れ、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。また、職員の外部研修参加を積極的に奨励し、資格取得のためのバックアップも整えている。	男女問わず雇用している。定年はあるが、再雇用することも可能である。法人内では外国人雇用も行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加した職員が会議の中で報告し、ご利用者の人権を尊重する介護の在り方を話し合い、ご利用者が安心して過ごせるよう支援に取り組んでいる。 また、職員は理念を意識し理念に基づいたご利用者の尊厳を守るケアの実践に取り組んでいる。	研修計画を作成し、年1回、人権に関する研修を実施している。事業所内研修を実施しているが、オンラインを活用している。研修報告書を作成して、職員で回覧し周知している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1名、人材育成委員会に参加し職員を育てる取り組みに努めている。 また、法人内外の研修を活用し知識や技術の習得ができるよう、スキルアップの機会を設けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員の更新研修、資格取得に関する研修、介護実践者研修、全国大会老人保健施設等の研修に参加し、他事業所の取り組みや、業務改善方法等、意見交換を行い、運営の質の向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から傾聴に配慮し、ご本人やご家族とゆっくり話せる時間を設けている。不安の解消と要望の把握、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員、計画作成者が入居に至るまでの経緯や、介護の苦勞を受け止め、ご家族が抱えている不安や要望を傾聴し、想いを反映させることで関係性の構築に努めている。 また、必要に応じて、負担の少ない範囲内での支援、病院受診の同行等をお願いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を見極め、必要だと思われるサービスの提案を行い、ご家族の要望に合わせて訪問診療、訪問看護、訪問歯科等のサービスを取り入れている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が持つておられる力を活かすことができるように支援している。日常の動作や活動等、ご本人ができることは行えるようにサポートし、会話の中でもご利用者から教えていただく視点を持ち、相互の関係性を築くように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって、ご家族の存在が大きな力であること。その気持ちをご家族と共有し一緒にサポートさせていただいている。その為にも、生活の状況、状態をお伝えし、ご家族との信頼関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部制限を設けさせていただいてはいるが、面会や外出を徐々に緩和し、ご家族と一緒に外出されるご利用者もおられる。可能な限り要望を聴き、ご家族、社会、地域との繋がりが保つことができるような支援に努めている。	「子ども見守り隊」で地域で活動することで地域住民との交流を深めている。携帯電話を持ち込みも可能で、事業所の電話を使用することもでき、家族や知人との交流ができるように配慮している。暑中見舞いや年賀状は職員と一緒に作成して、馴染みのある方に郵送している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係性を把握し、必要に応じて席の移動、居心地の良い環境、居場所作りを考え対応している。また、日頃から職員が間に入り、声を掛けることで孤立しないように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も施設や病院に面会に行っている。必要に応じて相談や支援を行い、ご本人やご家族との関係が途切れないよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の言葉、行動、表情等から、想いや願い願いを汲み取っている。アセスメントや介護記録を活用し職員間で情報共有している。	利用者との日頃のコミュニケーションや仕草等から思いの把握に努めている。事業所での暮らしに関して、利用者や家族、在宅介護事業所等の情報も加えてアセスメントを行っている。ミーティングや申し送り等を通じて、職員間での情報を共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、入居前の施設や事業所から情報を収集し、暮らしの継続ができるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事摂取量、排泄チェック、水分摂取量、身体、行動の記録を行、い状態把握に努めている。また、必要なケアを職員間で検討している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の意見や要望、心配事を聞き取り担当者会議を開催し、職員間で話し合い介護計画書の見直しを行っている。	関係者出席のもと、チーム対応で介護計画を作成している。計画の見直しは、3～6ヶ月ごとで、毎月のモニタリング結果を参考に作成している。利用者や家族から意見と同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、変化、ケアの実践内容について個別に介護記録に残し、また、特変時には申し送り帳を使用した情報共有を行い、必要に応じ介護計画書の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、受診や送迎支援を行っている。また、ご家族に代わり、必要なケア用品や嗜好品の代行購入の支援を行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策のため、ご利用者の参加は控えているが、事業所全体の取り組みとし、廃品回収や清掃活動、子ども見守り隊、子ども食堂等に参加し地域との繋がりを継続している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族と話し合い、希望されるかかりつけ医を選択している。今年度より、近隣の訪問診療を開始、医療連携を築きながら支援している。	かかりつけ医受診は、利用者や家族の希望に合わせて支援している。訪問診療（内科）、歯科、訪問看護等が定期的実施され、医療ニーズに対応している。他科（眼科、皮膚科等）受診は家族と連携して受診支援を行っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	遠賀中間医師会訪問看護ステーションより週1回の訪問と、必要に応じた処置が受けられている。また判断が難しい緊急時の医療機関への搬送指示を仰ぐ等、ご利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、365日24時間、密接に情報共有し連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを提供、入院中にも担当医や看護師、ソーシャルワーカーより経過を聴き、情報交換や相談に努めている。また、退院前のカンファレンスに同席し、受け入れに備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームは看取りを行っていないため、契約時に重度化の説明を行い、同意書をいただいている。	入居時点で、重度化した場合における対応に関わる指針を用いて、利用者や家族に説明している。利用者の状態変化に応じて、家族や医療関係者、職員と連携し、方針の共有を図っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について毎月訓練を行っている。R5年9月遠賀消防署より消防隊員2名来所され、防災訓練と消化訓練を実践した。ホーム内にAEDを常備し発生時に備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、日勤夜勤帯を想定し、火災や地震の訓練を実施している。 有事の際、近隣の協力をお願いしているため、避難用の個別ネームプレートを準備している。	避難訓練は毎月実施している。夜間想定 の避難訓練も実施している。年2回実施している総合防災訓練には、消防署の参加があり、防災関連の指導を受けている。非常用備品、非常食、飲料水はリストに基づいて事業所内に保管している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、個性を尊重した声掛け、ケアを実践できるよう、職員間で互いに声掛け気を付けている。 個人情報、守秘義務についても、内部研修で学んでいる。	誇りやプライバシーの尊重の大切さについては、接遇研修やミーティング等で学ぶ機会があり、マニュアル遵守とともに、職員間での共通認識が得られるように努めている。言葉かけや対応等が大切な個別ケアには、特段の注意を払っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助する側の意見を通すのではなく、日常生活の様々な場面で自己決定、選択ができる声掛け、対応に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やペースを大切にし、拒否があった場合でも無理強いすることなく、ご本人の体調や気分に合わせて支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はホットタオルで整容していただき、可能な限りご本人の好まれる洋服を選んで着用いただいている。 訪問理美容を利用し、カットや顔剃り、カラーリングをされる方もおられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるよう、好みを知り、代替の料理を提供したり、味付けを変える等工夫し、温かく見た目にも配慮している。 食器洗い等をお手伝いいただいている。	食事は、栄養バランスや旬の食材を中心としたメニューや、行事、誕生日のケーキ等、食事を楽しめるよう工夫されている。パン食や弁当、焼き芋の移動販売等、利用者のリクエストに応える支援に努めている。職員の支援のもと、利用者は食事の準備や片付けを行っている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を記録し必要に応じて水分量の記録を取るなど把握に努めている。かかりつけ医や訪問看護とも情報共有している。食事摂取量が低下した場合、栄養補助食品を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態、希望に応じて訪問歯科を利用、歯科医との情報共有と、ケアの助言を受けている。口腔内の状態確認、義歯の管理、夜間は義歯洗浄し衛生が保てるよう支援している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。また、一人ひとりの状態に合った、排泄用品を選定し使用していただいている。	トイレは、各居室に設置されている。そのほかユニットごとに1ヶ所設けられている。ミーティング等で排泄チェック表をもとに、利用者一人ひとりの習慣と傾向等、改善につながる検討を行い、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時や間食時等、水分を摂っていただき、ポカリスエット等、好まれる飲み物で補給していただいている。トイレ誘導時に腹部マッサージを行ったり、適度な歩行訓練等、また医療との連携し排便のコントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	その日の体調や気分、希望に合わせて支援している。また、季節や気温にも配慮し時間帯を柔軟にしている。拒まれるご利用者には、時間をずらしたり、職員が交代してタイミングを見ながら声掛けをしている。無理強いせず、日にちをずらす、足浴や清拭等に変更し、清潔保持に努めている。	入浴は常時可能であるが、概ね週3～4回の入浴となっている。脱衣所は換気や暖房設備が整っている。入浴後の皮膚観察や保湿剤の塗布等の支援も行っている。足浴や清拭等の清潔保持にも留意している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンや体調に応じて、日中の休憩時間を取り入れている。夜間眠れない時や、不安を感じておられる時は、側に寄り添い、気持ちを汲み取り、安心していただけるような声掛けに努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬や、外用薬に変更があった場合は記録に詳細に残し、情報共有を図っている。また、変更後の状態についても記録し、かかりつけ医へ状態を報告している。副作用についても、かかりつけ医、看護師、薬剤師から情報を聴き、体調管理を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで培ってこられた力を活かすことができるよう、後の食器洗いやトレー拭き等、生活の中で役割を持っていただいている。短歌の趣味のある方は、作品を応募し楽しみを続けられている 嗜好品については、ご家族に依頼したり、代行購入を支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防のため、外出支援の頻度は減っている。 ご家族との面会や外出は、一部制限を設けさせていただいてはいるが、徐々に増えてきている。安心して外出できるように、外出前の準備や、ご家族とのコミュニケーションに努めている。	天気の良い日は、事業所周辺や法人敷地内を散歩することを日課としている。感染予防のため外食や買い物は行っていないが、ドライブや花見等の外出支援は行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は紛失やトラブル防止のため、事務所で管理している。 移動販売時に職員が付き添い、お金の支払いをサポートしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人との電話時は、声が聴こえやすいよう自室でお話ししていただく等配慮している。 お手紙やハガキを、ご本人よりお預かりした時はご家族にお渡し、届いた際は一緒に読む等支援している。 また、年賀状や暑中お見舞い等、一言でも書けるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールは空調を調節し過ごしやすい温度、湿度の管理を行っている。換気を定期的に行い、衛生的で居心地の良い環境作りに努めている。また、共用のトイレは臭いにも配慮し、フタ付きバケツや消臭スプレーを使用している。 キッチンホールにあるため、調理の香りや音が聴こえる環境になっている。 毎日のメニューはボードに記入し、見え易い場所に設置、楽しみにされている方もおられる。	共用の場は、天井が高く日当たりも良く、テラスも広くて開放感がある。ユニットに隔たりもなく一体感がある。ソファの他に簡易ベットも準備されている。対面キッチンから生活の温もりが感じられ、家庭的な雰囲気も漂っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の相性、関係性に配慮しながら、テレビを観たい方は近くに、おしゃべりをしたい方はソファーに座られたり、過ごし方の意向を尊重している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご利用者とご家族と話し合い、馴染みのあるタンスや椅子、ご家族の写真や大切な物を持ち込んでいただいている。場所が変わっても、安心して心地よく過ごしていただけるよう、ご家族と共にサポートしている。 また、居室担当者が定期的に清掃し快適に過ごしていただけるよう努めている。	居室は、余裕のあるスペースが確保されている。トイレ、洗面台が各部屋に設置されている。利用者と家族が相談して、馴染みの家具や調度品、思い出の品々が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設置し、自室が分かりやすいようにしている。 身体機能や動線に合わせた居室のベッドの配置、手すりの設置を行い、また、自立した安全な生活を送っていただくため、センサーを設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
			○	③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、事業所の理念を声に出して唱和し、各職員へ理念を共有している。職員はご利用者一人ひとりを理解するよう努めその人らしい生活のサポートを行うよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事は未だ控えているため、交流の頻度は減っているが、地域の清掃活動や廃品回収、子ども見守り隊を事業所全体の取り組みとし、地域の一員として繋がりを持っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の影響から地域の方への見学会は中止しているが、サービス付き高齢者向け住宅の交流スペースを利用した支援を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月毎に年6回開催し、ホームの運営や取り組み、課題や事故等を報告している。参加委員からはご意見や要望等を提案してもらい意見交換を行っている。出された意見や要望を検討し、ホームの運営や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員に参加していただき、介護の困難事例や事故等を報告相談し、アドバイスを受けて情報交換を行っている。コロナ陽性者が発生した時は、フェイスシールドやガウン等を寄付していただいた。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一法人事業所と合同で身体拘束廃止委員会を開催し、具体的な禁止行為について事例を挙げて検証、職員は身体拘束が利用者にも与える影響や弊害について理解している。また、職員会議で話しあい、言葉使いや対応についても都度指導している。玄関は施錠していないが、段差があり危険なため、転落防止にセンサーを設置している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人研修や委員会で高齢者虐待防止について理解を深めている。 ケアの実践中に気づいたことは、その場で指導し適切なケアに努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関するパンフレットを玄関に準備し、ご家族や来所された方がいつでも閲覧できるようにしている。 現在、成年後見制度を活用されているご利用者がいるため、職員は理解するように努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みは常時受け付けており、契約時には口頭及び書面での説明を行い、同意のうえで契約いただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ伝える機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて、生活のご様子や状況の報告を行っている。ご家族の気持ちを汲みとり、話し易い雰囲気作りになら努めている。ご意見や要望、苦情等を真摯に受け止め、運営や介護計画書に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員が意見や要望を発言できる雰囲気作りになら努めている。出された意見や要望を運営や業務に活かせるよう努力している。朝夕の申し送り時に、職員の気づきや心配事を話し合い、速やかに対応している。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標達成シートを取り入れ、各自が目標とそれに合わせた計画を立て、達成できるように一緒に考えている。 また、努力や実績に応じた給与体制である人事考課制度を導入している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は、年齢、性別、資格等の制限はなく、人柄や働く意欲を優先している。 休憩時間や勤務体制、希望休に柔軟に配慮し、産休や育休体制も取り入れ、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。 また、職員の外部研修参加を積極的に奨励し、資格取得のためのバックアップも整えている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加した職員が会議の中で報告し、ご利用者の人権を尊重する介護の在り方を話し合い、ご利用者が安心して過ごせるよう支援に取り組んでいる。 また、職員は理念を意識し理念に基づいたご利用者の尊厳を守るケアの実践に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1名、人材育成委員会に参加し職員を育てる取り組みに努めている。 また、法人内外の研修を活用し知識や技術の習得ができるよう、スキルアップの機会を設けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員の更新研修、資格取得に関する研修、介護実践者研修、全国大会老人保健施設等の研修に参加し、他事業所の取り組みや、業務改善方法等、意見交換を行い、運営の質の向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から傾聴に配慮し、ご本人やご家族とゆっくり話せる時間を設けている。 不安の解消と要望の把握、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員、計画作成者が入居に至るまでの経緯や、介護の苦勞を受け止め、ご家族が抱えている不安や要望を傾聴し、想いを反映させることで関係性の構築に努めている。 また、必要に応じて、負担の少ない範囲内での支援、病院受診の同行等をお願いしている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を見極め、必要だと思われるサービスの提案を行い、ご家族の要望に合わせて訪問診療、訪問看護、訪問歯科等のサービスを取り入れている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が持つておられる力を活かすことができるように支援している。日常の動作や活動等、ご本人ができることは行えるようにサポートし、会話の中でもご利用者から教えていただく視点を持ち、相互の関係を築くように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって、ご家族の存在が大きな力であること。その気持ちをご家族と共有し一緒にサポートさせていただいている。その為にも、生活の状況、状態をお伝えし、ご家族との信頼関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部制限を設けさせていただいてはいるが、面会や外出を徐々に緩和し、ご家族と一緒に外出されるご利用者もおられる。可能な限り要望を聴き、ご家族、社会、地域との繋がりが保つことができるような支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係を把握し、必要に応じて席の移動、居心地の良い環境、居場所作りを考え対応している。また、日頃から職員が間に入り、声を掛けることで孤立しないように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も施設や病院に面会に行っている。必要に応じて相談や支援を行い、ご本人やご家族との関係が途切れないよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の言葉、行動、表情等から、想いや願い願いを汲み取っている。アセスメントや介護記録を活用し職員間で情報共有している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、入居前の施設や事業所から情報を収集し、暮らしの継続ができるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事摂取量、排泄チェック、水分摂取量、身体、行動の記録を行、い状態把握に努めている。また、必要なケアを職員間で検討している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の意見や要望、心配事を聴き取り担当者会議を開催し、職員間で話し合い介護計画書の見直しを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、変化、ケアの実践内容について個別に介護記録に残し、また、特変時には申し送り帳を使用した情報共有を行い、必要に応じ介護計画書の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、受診や送迎支援を行っている。また、ご家族に代わり、必要なケア用品や嗜好品の代行購入の支援を行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策のため、ご利用者の参加は控えているが、事業所全体の取り組みとし、廃品回収や清掃活動、子ども見守り隊、子ども食堂等に参加し地域との繋がりを継続している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族と話し合い、希望されるかかりつけ医を選択している。今年度より、近隣の訪問診療を開始、医療連携を築きながら支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	遠賀中間医師会訪問看護ステーションより週1回の訪問と、必要に応じた処置が受けられている。また判断が難しい緊急時の医療機関への搬送指示を仰ぐ等、ご利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、365日24時間、密接に情報共有し連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを提供、入院中にも担当医や看護師、ソーシャルワーカーより経過を聴き、情報交換や相談に努めている。また、退院前のカンファレンスに同席し、受け入れに備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームは看取りを行っていないため、契約時に重度化の説明を行い、同意書をいただいている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について毎月訓練を行っている。R5年9月遠賀消防署より消防隊員2名来所され、防災訓練と消化訓練を実践した。ホーム内にAEDを常備し発生時に備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、日勤夜勤帯を想定し、火災や地震の訓練を実施している。 有事の際、近隣の協力をお願いしているため、避難用の個別ネームプレートを準備している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、個性を尊重した声掛け、ケアを実践できるよう、職員間で互いに声掛け気を付けている。 個人情報、守秘義務についても、内部研修で学んでいる。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助する側の意見を通すのではなく、日常生活の様々な場面で自己決定、選択ができる声掛け、対応に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やペースを大切にし、拒否があった場合でも無理強いすることなく、ご本人の体調や気分に合わせて支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はホットタオルで整容していただき、可能な限りご本人の好まれる洋服を選んで着用いただいている。 訪問理美容を利用し、カットや顔剃り、カラーリングをされる方もおられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるよう、好みを知り、代替の料理を提供したり、味付けを変える等工夫し、温かく見た目にも配慮している。 食器洗い等をお手伝いいただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を記録し必要に応じて水分量の記録を取るなど把握に努めている。かかりつけ医や訪問看護とも情報共有している。食事摂取量が低下した場合、栄養補助食品を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態、希望に応じて訪問歯科を利用、歯科医との情報共有と、ケアの助言を受けている。口腔内の状態確認、義歯の管理、夜間は義歯洗浄し衛生が保てるよう支援している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。また、一人ひとりの状態に合った、排泄用品を選定し使用していただいている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時や間食時等、水分を摂っていただき、ポカリスエット等、好まれる飲み物で補給していただいている。トイレ誘導時に腹部マッサージを行ったり、適度な歩行訓練等、また医療との連携し排便のコントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	その日の体調や気分、希望に合わせて支援している。また、季節や気温にも配慮し時間帯を柔軟にしている。拒まれるご利用者には、時間をずらしたり、職員が交代してタイミングを見ながら声掛けをしている。無理強いせず、日にちをずらす、足浴や清拭等に変更し、清潔保持に努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンや体調に応じて、日中の休憩時間を取り入れている。夜間眠れない時や、不安を感じておられる時は、側に寄り添い、気持ちを汲み取り、安心していただけるような声掛けに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬や、外用薬に変更があった場合は記録に詳細に残し、情報共有を図っている。また、変更後の状態についても記録し、かかりつけ医へ状態を報告している。副作用についても、かかりつけ医、看護師、薬剤師から情報を聴き、体調管理を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで培ってこられた力を活かすことができるよう、後の食器洗いやトレー拭き等、生活の中で役割を持っていただいている。短歌の趣味のある方は、作品を応募し楽しみを続けられている 嗜好品については、ご家族に依頼したり、代行購入を支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防のため、外出支援の頻度は減っている。 ご家族との面会や外出は、一部制限を設けさせていただいてはいるが、徐々に増えてきている。安心して外出できるように、外出前の準備や、ご家族とのコミュニケーションに努めている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は紛失やトラブル防止のため、事務所で管理している。 移動販売時に職員が付き添い、お金の支払いをサポートしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人との電話時は、声が聴こえやすいよう自室でお話していただく等配慮している。 お手紙やハガキを、ご本人よりお預かりした時はご家族にお渡し、届いた際は一緒に読む等支援している。 また、年賀状や暑中お見舞い等、一言でも書けるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールは空調を調節し過ごしやすい温度、湿度の管理を行っている。換気を定期的に行い、衛生的で居心地の良い環境作りに努めている。また、共用のトイレは臭いにも配慮し、フタ付きバケツや消臭スプレーを使用している。 キッチンホールにあるため、調理の香りや音が聴こえる環境になっている。 毎日のメニューはボードに記入し、見え易い場所に設置、楽しみにされている方もお		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の相性、関係性に配慮しながら、テレビを観たい方は近くに、おしゃべりをしたい方はソファに座られたり、過ごし方の意向を尊重している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご利用者とご家族と話し合い、馴染みのあるタンスや椅子、ご家族の写真や大切な物を持ち込んでいただいている。場所が変わっても、安心して心地よく過ごしていただけるよう、ご家族と共にサポートしている。 また、居室担当者が定期的に清掃し快適に過ごしていただけるよう努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設置し、自室が分かりやすいようにしている。 身体機能や動線に合わせた居室のベッドの配置、手すりの設置を行い、また、自立した安全な生活を送っていただくため、センサーを設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
			○	④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		